

モルゲンロートに染まるアルプスを観望するため飯縄山に

山行日：1月13日（月）

工程：飯縄登山口 2：43－南登山道－南峰 5：32－北峰 5：48－南峰 6：16/7：36－南登山道－
飯縄登山口 8：52

モルゲンロートとは、朝焼け。朝日の出る前に山がバラ色に美しく染まること。アーベントロート（夕焼け）とともに山が最も美しく見えるときのひとつ（日本大百科全書（ニッポニカ）の解説より）。

Yさんは、昨年この飯縄山（飯綱山ともいい）登山口の名称は飯綱山登山口という、に早朝に三度登り、モルゲンロートに染まるアルプスを観望できていない。それを聞いたKは、では行きますかと何時もの軽い返事で、Nさんと連れ立って成立した登山である。

モルゲンロートは原則的に東の空が赤くなるのは、雲がないときで天気の良いことを示すもので、前日の天気予報で白馬岳方面が晴れることが想定され、松戸を20時30分に車でたつ。この中途半端な時間設定は、出発前の仮眠も、登山口での仮眠もできず、単に、帰路に体力の消耗を追うこととなった。松戸を時間通りに出たが、上里付近での3車線のうち2車線を閉鎖する工事渋滞で約40分程度遅れ、登山口までの到着と登り時間の焦りを生じることとなった。

そんな中、迅速な、又は粗い運転で、時間通りに登山口に着いた面々は、パンを頬張りながら、登山靴、かっぱ、スパッツ、アイゼンを装着して、真っ暗闇の中、ライトの明かりのなか、雪道を登り始めた。途中、第一不動明王から始まる十三の菩薩が登山口に設置されているが、暗さのために奇数の菩薩のみがライトに照らされた。不思議である。第十一の阿闍(あしゅく)如来からの冬道は、踏み跡もなく、明らかな急坂のため、夏道を進む。外界の視界が開け、長野市の夜景が広がり、行先にぼんやりと頂上付近が確認され、約5時半頃、南峰に達する。計画よりかなり早いのは、何故か。朝日は後1時間以上後のため、事前に北峰を伺うこととし、風が強く体感でマイナス15度位のなか北峰に5時48分に、戻って南峰に6時15分ごろ着く。頂上の飯縄神社建屋内で食事をするとともに、雪原で1時間近く朝日を待つ。手にもつカメラが霜で真っ白となる。

東には、浅間、四阿山、苗場山などの志賀の山々が、東南には八ヶ岳とその奥には富士山の円錐が、南には鹿島槍から白馬岳の後立山連峰の山々、西には、戸隠山山塊の先に高妻山の峰が、15夜の月（Yさんここで満月も懸念に気づく）で真っ白に輝く。待ちに待った日の出とともに、なんとしたことか霧が発生し、かつ満月の明かりと、正月開けの澄んだ空気で空の赤みが薄く、バラ色に染まる山がない。

以上が山行報告です。

下山後、善光寺門前で十割そばを、川中島温泉で湯に浸かり、夜通しの運転と山行で、貴重な山行を経験した。

